

ほたるの里だより



ほたるの里バス見学会に参加して

ホタルメイト 森田 朗

八千代市ほたるの里づくり実行委員会

第27号 2009年10月

8月18日今年には市川市の大柏川第一調整池緑地と同じく市川市の大町自然公園を見学することになり、市役所を出発し予想された混雑も無く約1時間あまりで大柏川第一調整池緑地に到着し、県立高校の岩田先生のご案内で園内を回り、色々とお説明を頂きました。

ここは昭和30～40年代に周辺の急激な開発が進み大きな洪水の被害が度々発生したため大柏川流域全体を制御する統合治水事業が始まり、市川市北方(ぼっけ)4丁目に大柏川の水位が上昇したさいに、その水を導入する調整池を造る事が決定し、当時ここは休耕田となりアシやガマが繁茂し多くの生き物が生活していましたが、市側では水位が上がったときは調整池、通常は野球場或いは池の上に蓋をして住宅地を造成するなどの案があったようですが市



※図の右側は大柏川です。中央は1,5メートルぐらい低い堰堤で増水時此処から水が流れ込みます。左側は蛇籠が階段状に積まれた導水路で流れ込んだ水は一番奥から順次棚田状の調整池に溜まります。

民の皆さんが市長や県知事に自然に配慮した調整池にするよう熱心に働きかけ「北方遊水池の築造・利用はその良好な自然環境に配慮するものとする」との基本合意が纏まりました。

其の後も市民有志が自然環境の復元を図り又調整池としても十分な機能を持つモデルプランを作成し市民案として市と折衝したり、ビジターセンターやポンプ場も和風作りとする案や、唯大きな池を造ったのでは雨の少ない時期は底に少し水が溜まるだけとなるため、棚田状に5段階の高さにして常に池全体に水を湛えた調整池にするなど全て市民案で工事は進められ2007年6月、20年以上の歳月を掛けて「大柏川第一調整池緑地」として市民に開放されました。 ↑

今後は此処をどの様に整備を進め、どの様にして市民の方々に活用して頂くか課題だと思います。

現在、湿生植物のガマ、アシ、ヒメガマ、カヤツリグサなど、野鳥はダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、アマサギ、カルガモ、カイツブリ、カワウ、

カワセミ、セッカ、オオヨシキリなどですが冬季は多くのカモ類、シギ類、ユリカモメ、などが飛来しますし、昆虫はトンボ、チョウ、バッタの仲間、小さな甲虫類などが多く見られました。

昼食後バスにて大町自然公園に移動し、学芸員の金子先生のご案内で自然博物館内のご説明、自然園に出て特にヘイケホタルが増えている現状もご説明を頂きました。

暫く来なかった園内はすっかり変わり手前の斜面林はモミジが沢山植えられ、池はア

シヤガマが繁茂していたのが全く無く大きな錦鯉や真鯉が泳いでおり、バラ園はあまり記憶が無く、その奥のアシヤガマが生い茂った湿地は何か以前より荒れ果てたように見えました。

金子先生の説明では動物園を訪れた人がその後自然園に回り、いきなりアシヤガマの生い茂ったところを見て、此れが自然ですと言われても馴染めないのではないかと、そこで大きな錦鯉が泳ぐ池を巡り、バラ園で綺麗な花を見て、それから鬱蒼とした林に囲まれた多くの湿生植物の中を流れる湧き水、其処に住む、鳥、トンボ、チョウ、サワガニ、ホタルなどを見てもらえば自然に対する理解が得られるのではとの配慮だそうです。 →2ページへ

ヘイケボタルの餌は何か、その餌を増やすにはどうする、などはあまり考えず林の枝先を湿地の上まで低く伸ばす、湿地に背の高い植物を生育するなど、夜間の光を徹底的に遮り、その暗い場所の湿生植物を

排除して、浅い水溜りを沢山造る事で自然にヘイケボタルが大量に増えているそうです。私たちのボタルの里にも何かヒントがありそうですね。

平成21年度生物多様性モデル事業補助金決定しました

《事業名 八千代市内のニホンアカガエルの棲息調査と保全》

実行委員会 桑波田 和子

八千代市ほたるの里づくり実行委員会は、千葉県が募集した、「平成21年度生物多様性モデル事業補助金」に応募し、50万円の補助金が決定しました。この補助金事業は、「NPOによる生物多様性の保全・再生、持続可能な利用等に関する先導的な取り組みを支援するもので、先導的かつ、他のNPO活動の参考となる事業」です。ほたるの里づくりは、昨年度に引き続き、モデル事業として選ばれました。

事業内容は以下になります。事業活動を通して、水辺の生き物への関心と保護への理解が広がり、八千代市内で特に残り少なくなったニホンアカガエルの保護活動の輪を広げていきたいと願っています。

皆さまの関心とご協力をお願いします。

《事業の具体的内容》

◆ 目的

八千代市内のニホンアカガエルの生息場所はわずか4箇所となり、卵塊数も少く絶滅の危機にあります。生息箇所の一つ、石神谷津は、宅地開発が始まり、卵塊が見られる田んぼは、工事対象の隣接部となるため、平成23年度までUR都市機構の管理の下に置かれます。UR都市機構は田んぼの草刈など市民の参加も認め、ニホンアカガエルとヘイケボタルの保全に協力の姿勢は見られます。

しかし、工事による環境の変化など、生物にとっては過酷な状態が続くことから、この地の調査と観察を行います。今後、ニホンアカガエルを他の場所へ移したほうが良いことも検討するため、八千代市内の生息可能な場所と現在の生息場所の調査を行います。また、ほたるの里にはニホンアカガエル、ヘイケボタルが

生息しているため、今後受け入れられるための場所づくりなど行います。さらに、啓発のため、里のリーフレットなど作成し、保全活動を多方面から支えていきます。

◆ 内容：

- ・石神谷津のニホンアカガエル及びヘイケボタルの調査
- ・八千代市内のニホンアカガエルの棲息調査
- ・ほたるの里の環境整備。（ニホンアカガエル、ヘイケボタル）

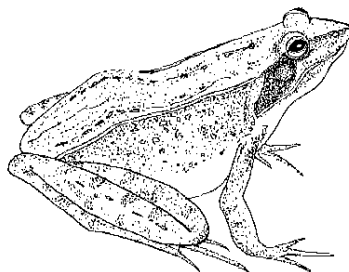
- ・ほたるの里のリーフレットと谷津の生態図作成

◆ 事業期間

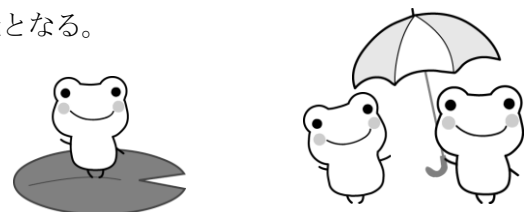
平成21年8月1日～平成22年1月31日

◆ 期待される成果

- ・石神谷津の観察などにより、ニホンアカガエルの生息が可能な糸口を検討できる。
- ・ほたるの里で環境を整える等の活動を通して、石神谷津のカエルを受け入れられるような場所となることが期待される。
- ・モニタリングサイト1000里地調査一般サイト（ニホンアカガエル）調査中のため、継続的調査から事業の成果や更なる課題など、保全に向けての対策が可能となる。
- ・ほたるの里のリーフレット及び八千代の谷津田の生態図などを作成することにより、広く市民への啓発が可能となる。



ニホンアカガエル

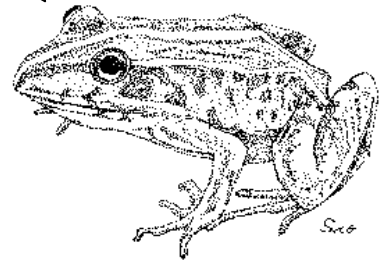
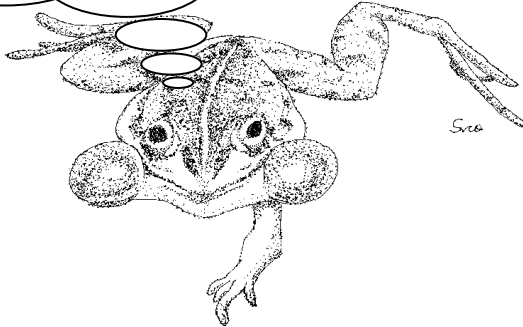
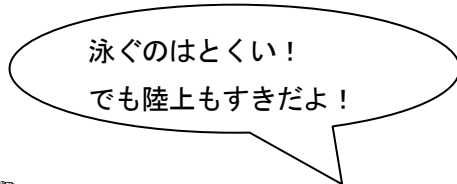
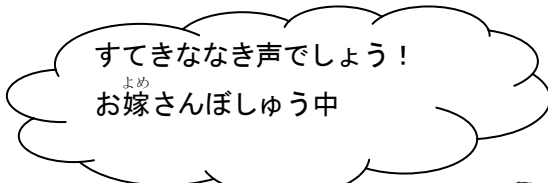


トウキョウダルマガエル

ほたるの里でよく見るカエルの一つです。トウキョウダルマガエルはどんなカエルかな？

- すんでいる所？ 田んぼや池、ぬま、流れのゆるやかな川など
- 日本の中ではどこにいるの？ 主に^{かんとうちほう}関東地方にいます。^{せんだい}仙台や^{にいがたけん}新潟県・^{ながのけん}長野県にもいます。
- 体はどんな形？ トノサマガエルに似ています。足が短くずんぐりとし、体の黒いもようがこまかく、オスとメスの体の色は同じです。
- 体の大きさは？ オス39～75mm、メス43～87mm
- 何を食べるの？ こんちゅうやくもなど。
- 卵はいつうむの？ 4～7月に水田などに2,000個近くの卵を、いくつかの^{かたまり}塊に分けてうみます。
- なき声は？ ソゲゲゲ、ソゲゲゲ・・・

(文：くわはた 絵：もり)



ザリガニ釣り大会報告



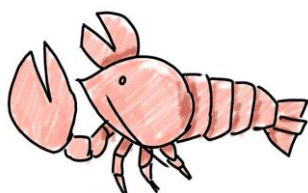
ほたるの里で毎年恒例となりましたザリガニ釣り大会が8月29日(土)に開催されました。当日は、好天に恵まれ、参加者は34名になりました。

親子での参加が多く、子どもだけでなく、お父さんお母さんも夢中になり、ザリガニを釣っていました。

なお、この日は全体で約100匹のザリガニを釣り、1位のご家族の方は4人で26匹も釣ることができました。

ザリガニはホタルの天敵です。今年のホタルの成虫の確認数が少なかった要因の一つにザリガニの数の多さが考えられます。

ザリガニを住みにくくする環境作りも今後、必要になってくるのではないかと思います。



ホタルウィーク 管理部 赤間 洋明

例年7月上旬に行っていた「ナイトウォッチング」に替えて、今年は6月27日(土)～7月5日(日)の9日間を「ホタルウィーク」として皆さんにホタルを鑑賞してもらうことにしました。「ホタルウィーク」の間中は毎晩、駐車場の指導に当たる人やホタルについて説明する人を配置して来場者に備えました。

肝心のホタルですが確認できない日も多く、見られても1, 2匹と例年に比べてさびしい結果でした。期間中の来場者は約190人ありましたが、折角見に来てくれた人にも残念な思いをさせることも多々ありました。要因としてはザリガニ等の外敵、アシの過剰な繁茂、車のライト、ホタルの羽化と開催時期のずれなどいろいろ考えられます。毎年ホタルの幼虫を放流していますがなかなか増えない状況にあります。ホタルの住みやすい環境、開催時期など多面的な改善が必要と思われます。



10～12月のスケジュール

✂ 里の環境整備 ✂

ほたるの里でホタルが住みやすい環境にするため、草刈を行います。

日時：11月14日（土）午前10時から12時ごろ

集合場所：ほたるの里

注意：各自で軍手・飲み物等のご用意をお願いします。

新川一斉清掃のお知らせ

八千代市環境保全課で毎年、印旛沼の水質を守るため、市民ボランティアによる新川周辺の清掃活動（ゴミ拾い）を行っております。

皆様のご協力をお願いいたします。

（源右衛門祭同時開催：八千代市商工会議所主催）

日時：11月8日（日）

午前10時～午前11時30分 小雨決行。

大雨荒天時は中止。

場所：新川浅間下駐車場（村上橋そば）集合

問合先：環境保全課 内（3214）

ホタルメイトになりませんか？

| | | |
|-----|------|--------|
| 年会費 | 個人 | 500円 |
| | 市民団体 | 2,000円 |
| | 事業所 | 2,000円 |

ホタルメイトで会費未納の方は、市環境保全課窓口、イベントまたは里整備時に受け付けているほか、お近くの郵便局でも郵便振替で納入していただくことができます。

郵便局でお振込の場合

振替手数料 ATM：80円

窓口：120円

払込先：八千代市ほたるの里づくり実行委員会

口座番号：00150-7-670156

☆ ほたるの里学習会 ☆

～カエルの学習会～

カエルはあいきょうのある姿や鳴き声、カエルグッズ等私たちに身近な存在として人気ものです。しかし、水辺環境の激減、開発などによりカエルは減少しています。

特にニホンアカガエルは、千葉県レッドデータブックでは、カテゴリーA（最重要保護生物）に指定され、八千代市内でも生息場所は数か所です。

そこで、初めての試みとして、カエルの生態やカエルがすめる環境についての学習会を開催し、野外観察を石神谷津で行います。

日時：10月24日（土）

午前9時30分～11時30分

場所：寺台公会堂（八千代市吉橋）

（ちばレインボーバス：八千代緑が丘駅発木下

駅行き、高本入口下車徒歩5分）

石神谷津（野外観察）

内容：カエルの生態について

現地観察（カエル等のすめる環境）

参加対象：小学生以上（小学4年生以下は親子同伴）

講師：庭野 裕 氏（東邦大学生物学科大学院修士課程）

程：研究テーマ「ニホンアカガエルと山アカガエル」）

参加費：無料

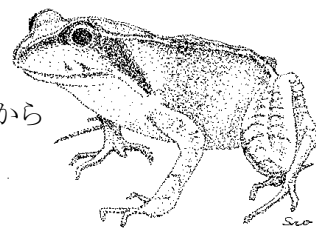
募集人数：先着30名

参加申し込み日：10月15日から

申し込み：電話で事務局へ

※動きやすい靴と服装

あれば、長靴持参でご参加下さい



今年も『サポートセンター祭』に、 ほたるの里づくり実行委員会が出展します！

日時：11月23日（月・祝）10：00～17：00

場所：イオン八千代緑が丘ショッピングセンター
2階アゼリア広場、ローズ広場

【ほたるの里の連絡先】

〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5

八千代市ほたるの里づくり実行委員会事務局 八千代市役所環境保全課 内

Tel 047-483-1151 Fax 047-484-8824 E-mail kankyoul@city.yachiyo.chiba.jp

【編集】

広報部会 事務局